

演題 **Bar-retained overdenture** を用いた咬合再構成の 1 症例

演者 八田 知之

日時 2013 年 9 月 24 日

**Key Words**      ① **Implant overdenture**  
                      ② **Bar-retained (Bar-clip)**  
                      ③ 上顎前歯部の骨吸収

症例                61 歳男性。2010 年 8 月 9 日初診。 主訴：歯が抜けた

口腔内所見      全顎的に重度の歯周疾患に罹患しており、義歯を使用していたが不適合であった。

治療計画      残存歯をすべて抜歯し、同時にインプラントを埋入。  
**Implant overdenture** で補綴を行う治療計画とした。  
その際のアタッチメントは **bar-retained(bar-clip)**とした。

治療            2010 年 9 月 7 日抜歯処置及び、インプラント (**Nobel biocare replace Select tapered NP**) 埋入手術 4 本を施行。  
インプラントの免荷期間(8 週間)の後、インプラント部の印象採得を行った。  
顎位の決定にはゴシックアーチ描記法を用いた。  
2011 年 3 月 1 日最終補綴(上顎 **Complete denture**、下顎 **Bar-retained overdenture**) をセットし終了とした。  
現在治療後、2 年半が経過しているが異常所見等は認めない。

まとめ            高齢化社会を迎え、インプラント治療を行っている患者も将来介護等が必要になる場合が増える。介入しやすいように設計等をシンプルにしたり、清掃しやすくする必要がある。その際、**Implant overdenture** は様々な治療オプションがあり、有効な治療方法だと考える

上顎前歯部の骨吸収抑制のため、インプラントを埋入すべきであったか等先生方のご指導の程よろしくお願い致します。